



PDA 即興型英語ディベート キーノートディベート（第 35 回）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：2026 年 4 月 29 日（水・祝）10:00-11:30

会場：オンライン（Zoom）

参加者：14 名（ディベーター 9 名、ジャッジ 2 名、見学 3 名）

今月のキーノートディベートでは、ディベートに先立ち、論題の背景となる研究内容について、大阪公立大学大学院工学研究科機械工学分野教授であり PDA 代表理事の中川智皓氏より解説が行われました。講演では、新しい乗り物の安全性や、人と共存するための工夫について、具体的な事例を交えながら分かりやすく説明がありました。また、技術だけでなく、人の感じ方や社会との関わりも含めて考えることの重要性についてもお話がありました。講演は、参加者への問いかけを交えながら進められ、双方向的な形式で実施されました。



キーノートスピーカーの紹介



キーノートレクチャーの様子

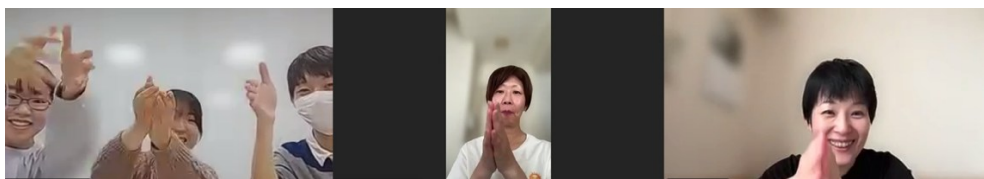
ディベートの様子

今月のキーノートディベートの論題は、“**In a world with basic income, people are happier not working than working.**（ベーシックインカムがある世界では、働くよりも働かないほうが幸せである。）” でした。テクノロジーの発展により、人の活動がロボットなどに代替されつつある現代において、「働く意味とは何か」「テクノロジーは人を幸福にするのか」といった問いを背景に設定された論題です。

肯定側は、「搾取から解放されること」や「自分の好きなことにより多くの時間を使えること」を主な論点として議論を展開しました。一方、否定側は、「働くことによる充実感や生きがい」や「精神的な健康」といった観点から反論を行いました。また、個人の幸福にとどまらず、社会全体への影響にまで視野を広げた分析も見られ、多角的な視点から活発な議論が交わされました。ディベート後には、画面越しに握手を交わし、ジャッジから勝敗の発表とともに、個別フィードバックが行われました。さらに中川氏からは、本論題の狙いについての解説もあり、キーノート講演とディベートのつながりを実感する機会となりました。



ディベートの様子



ディベート後の握手

参加者の声（アンケートより抜粋）

- ・ 今度はディベーターとしても参加したいと思いました。
- ・ ディベーターの方々が上級者で驚くと同時に凄く勉強になりました。今回を参考に今度は自分がディベートに参加できるよう頑張りたいと思います。
- ・ 今日、初めてということで見学でしたが、皆さんのディベートのレベルの高さに刺激をいただきました。英語力、分析力等とても素晴らしいです。また、中川さんのレクチャーもとても勉強になりました。次回は頑張ってディベートします。
- ・ 中川先生の研究がとても興味深かったです。ディベートモーションとの関連も含めてためになるなと思いました！ありがとうございました。
- ・ ディベーターとして参加しました。ジャッジの方から頂きましたコメントやフィードバックも大変勉強になりましたし、中川先生のご専門の機械工学のお話も大変興味深いものでした。どうもありがとうございました。
- ・ 久々のディベートで不慣れでしたがキーノートレクチャー含め楽しかったです。
- ・ 大学生の方と温かい交流ができて楽しかったです。また、中川先生の研究に関するお話を通して、次期学習指導要領で目指している部分と重複する点多々あり、これからの教育で求められることを再確認できました。多くのことを学べてとても充実した時間になりました。ありがとうございました。
- ・ とても楽しかったです。ジャッジの方のコメントがとても勉強になりました。これからもディベートをやっていくモチベーションになりました。